

平成 28 年 5 月 23 日

経済産業大臣  
林 幹雄様

一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会  
会長 遠藤 信博

## 情報通信ネットワーク産業に関する要望書

わが国は、政府の政策や企業経営の革新等により経済は回復に向かい、業績回復や雇用の拡大、経常収支の改善が進展しました。今後、この流れをより確実なものにするために、さらなる消費や投資の拡大につながる好循環の実現、長期に渡るデフレからの脱却と、持続的な成長を達成しなければなりません。

このような、わが国の成長を、ICT産業は幅広く支えており、CIAJは、ICT産業を代表する団体として、業界を支援していく役割を担っています。さらには、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、元気な日本を世界に発信していくことにも、大きく貢献して参ります。

当業界は、厳しい事業環境におかれているものの、経済成長のエンジンとしての期待にしっかりと応え、業界成長に向けて取り組んで参りますので、ご支援を賜りたくよろしく願いいたします。

# 1. 情報通信ネットワーク産業界の概況

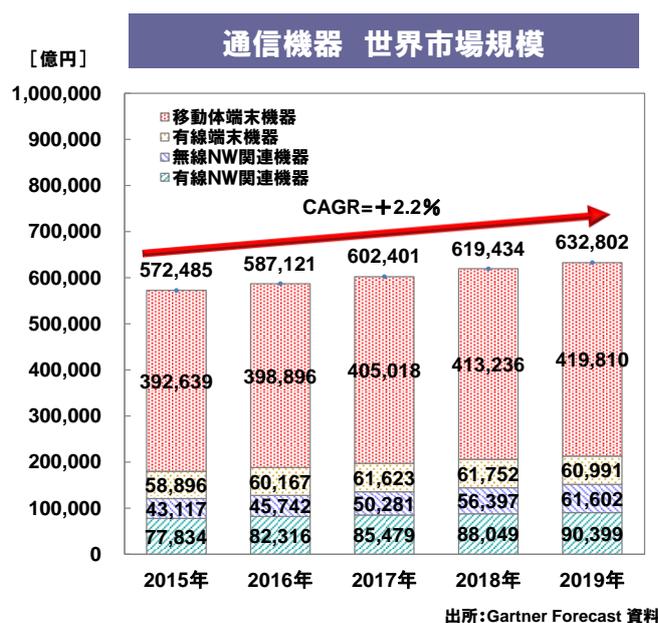
## (1) 通信機器業界の状況

通信機器の世界の市場規模は、今後5年間、年平均成長率(CAGR) +2.2%で伸びるものと考えられています(図1)。

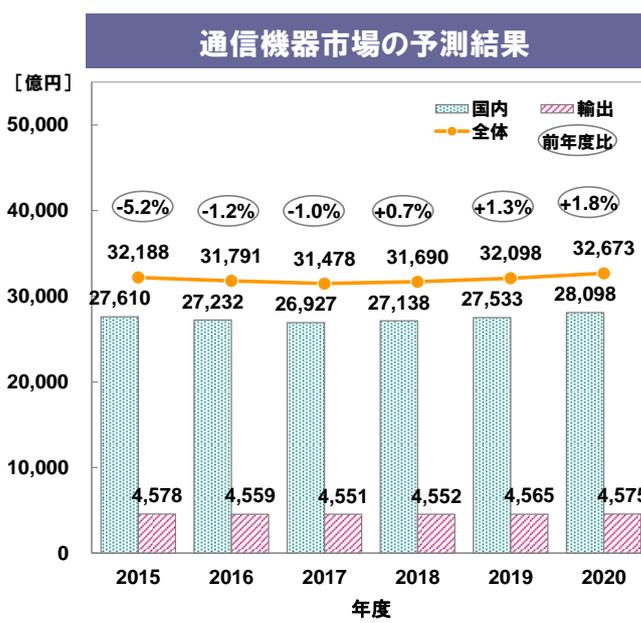
一方、国内市場はここ数年厳しい状況が続いています(図2)。2015年度の通信機器市場見通しは、3兆2,188億円、前年度比5.2%減となる見込みです。

国内は、端末機器に加えて、ネットワーク機器が落ち込むと見込まれ、2014年度よりマイナスの2兆7,610億円(同比4.3%減)の見通しです。輸出も、海外生産/海外出荷の進展等により4,578億円(同比10.3%減)とマイナスの見通しです。

国内市場は、スマートフォンの競争激化、ネットワーク機器の単価下落や設備投資需要の低迷が影響しています。



(図1)



(図2)

## 2. 情報通信ネットワーク産業界の要望事項

C I A J は、情報通信ネットワークに関わる産業の健全な発展に向け、国の政策等に対する提言を行うことを事業のひとつとしています。このため、日々の省庁への提案活動に加え、1年に一回程度、総合的な産業界の要望をとりまとめております。

この度、要望事項をとりまとめましたので、ぜひとも、今後の予算検討等にご反映いただきたくお願い申し上げます。

### (1) 活力ある経済・社会の構築

#### 1) I o Tによる新産業創出、社会的課題解決

近年、ドイツの「Industrie 4.0」や、アメリカの「Industrial Internet」等に代表されるように、I o Tによる産業構造の革新を目指した動きが、グローバルレベルで活発化しています。

我が国においても、I o T/ビッグデータ/AI（人口知能）の本格的普及により、データ駆動型社会を社会全体に的確に取り入れることができれば、高度なデータ利活用による新事業・新サービスの創造や、地域産業の活性化・生産性の向上、労働力不足の問題、地球環境問題、老朽化インフラに関する問題等の様々な社会的課題の解決にもつながります。

飛躍的生産性向上が期待される産業インフラ、流通、交通、医療、行政等の各分野において先進的なモデル事例を作り上げ、データ駆動型社会の実現に向けて、I o T推進コンソーシアムの活動成果の早期

展開、I o T先進事例におけるビジネスプラン策定、プラットフォーム整備の具体的プロセスやノウハウの情報共有、コンサルティングといった支援等、I o Tを推進する企業・団体組織が抱える課題への対応策立案を目的とした、総合的な企画調整機能の強化をお願いいたします。

また、新産業構造部会にて策定された「新産業構造ビジョン 中間整理」に対し、7つの具体的戦略におけるアクションプラン策定やK P I設定と進捗管理、足元の取組みであるI o T推進コンソーシアムの活動への具体的反映等を要望いたします。

## **(2) ICT産業の国際競争力強化**

### **1) グローバル展開の推進**

日本のICT基盤は、海外からも注目されており、防災、教育、医療・介護等の分野における日本の高い技術は、新興国からも期待がかかっています。

また、先のG7香川・高松情報通信大臣会合においても、2020年までに世界中で新たに15億人をインターネットに接続可能とすることを目指すこととしています。

これらのICT基盤のグローバル展開において、技術協力や戦略的トップ外交の推進等、新興国市場への展開に向けての多面的支援を要望します。また、世界各地のインフラ需要の取り込みに向けて、相手国のインフラ整備案件における企画段階からのICT関連プロジェクト

トの参画や現地F S（Feasibility Study）の実施等のグローバル展開の支援を通じて、我が国の質の高いインフラシステムの海外展開の支援強化をお願いいたします。

## **2）国際的ルールの整備**

今後急成長が予想されるロボット、I o T等重点分野のグローバル展開に即し、システム導入や運用・保守等における規制・制度や重点分野における先端技術の国際標準化等に対する戦略的グローバル調整に向け、日本企業のとりまとめや国際協調の先導的役割のもと、国際的ルールの整備の推進を要望いたします。

## **（3）2020年を見据えた研究開発、技術開発の推進と人材育成**

### **1）高度なデータ利活用を可能とする横断的技術の開発推進**

I o T/ビッグデータ/A I時代では、ビッグデータの解析やA Iの進化による高度なデータ利活用が、判断の高度化や予測・予知の精度を向上による最適化を促進させ、リアルな世界へのフィードバックを通して、生産や資源の飛躍的効率化、さらには新事業・新サービスの創出を実現します。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を、世界最先端I T 国家実現への契機と捉え、高度なデータ利活用を可能とするデータ流通基盤に関して、横断的技術開発の推進と実証に向けた環境整備の推進の強化をお願いいたします。

さらに、データ利活用において必須となるサイバーセキュリティ対策は、安全・安心なデータ駆動型社会の構築に向けた重要事項として、CIAJにおいても分科会を発足させており、サイバーセキュリティに関連する技術開発の推進と社会実装の加速をお願いいたします。

## **2) オープンイノベーション・橋渡し強化**

I o T推進のため、産学官の様々な主体が参画し、民間主導のユースケースを迅速に掘り起こすとともに、課題となる規制・制度改革やルール形成の検討、さらに技術シーズを多くの企業へ迅速に「橋渡し」し、実用化していくことが重要です。

I o T推進コンソーシアムに対する活動支援や成果の早期展開、実用化に向けた体制整備等を要望いたします。

## **3) 新しい日本を担うICT人材の育成・活用**

I o T/ビッグデータ/AI時代で必要とされるICT人材は多方面に渡っており、個々の技術のスペシャリストに加えて、データサイエンティスト、セキュリティ人材、SDN (Software-Defined Network) やクラウドの開発技術者、無線と有線が統合した高度複合技術者等、複数領域の技術連携に対応したスキルを持った人材が、今後増々必要となります。

また、人材の育成・確保は、ICT人材の裾野を広げるとともに、最先端スキルを備えた人材の確保とスキル向上の両面で推進しなければなりません。

このために、必要となるICT人材の定義を明確化し、省庁間あるいは民間と連携した新しい人材育成機関の設立、IoT/ビッグデータ/AI時代にふさわしい資格制度づくり等、社会的整備・取組みを要望いたします。

また、ICT人材の不足に対して、産学官における若手人材育成に加えて、シニア技術者の活用や、女性・外国人の活用等も含めたICT人材の活用・育成政策の強化をお願いいたします。

## おわりに

CIAJは、産業界並びに社会の共通課題の解決に向けて、今後とも研究開発、その成果の速やかな事業化、政策提言など積極的に取り組めますので、政府一丸となった着実な取組みを切に要望いたします。

以上